

【授業科目】 公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
後藤 由紀、大谷喜美江	2年次前期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可	
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対するフィードバック方法	授業概要／看護職にとって必要な公衆衛生看護の対象理解や看護活動に必要な基本的知識と関連する知識・技術について講義する。具体的には、公衆衛生看護の理念と目的、歴史の変遷、社会環境の変化と健康への影響、プライマリヘルスケアやヘルスプロモーション、地域の捉え方、地域ケアシステムについてである。また、行政、産業、学校等多様な場で行われる公衆衛生看護活動、国際協力、健康危機管理に関する看護活動について講義する。課題に対するフィードバック方法/提出された課題について、全体の総評コメントを資料にて公開する。								
実務経験に関する授業内容	行政および産業分野での臨地経験を持つ教員が、公衆衛生看護の対象理解や活動に必要な基本的知識と関連する知識・技術、具体的な公衆衛生看護活動について講義およびグループワークによって教授する。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①公衆衛生看護学の理念、歴史、生活環境の変化と健康問題との関連について理解できる。 ②公衆衛生看護活動に必要な理論であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、個人・家族・集団・地域への支援方法、健康レベル・発達段階に応じた支援方法の特徴について述べる事ができる。 ③様々な場における公衆衛生看護活動の特徴と役割について述べる事ができる。 ④国際看護活動について理解できる。 ⑤健康危機管理の概念を知り健康危機予防のあり方について述べる事ができる。								
時間外学習に必要な内容・時間	第1～15回事前学習：各自で教科書を読んでくる。(各30分) 第1～15回事後学習：各自で授業時に配布した資料や参考書をもとに要点を整理しておく。(各30分) 第6回事後学習：居住する地域の地区踏査し、レポートにまとめる。(90分) その他に、講義で学んだことを振り返るための宿題を課すことがある。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。								
授業計画	第1回 公衆衛生看護の理念：定義・目的・対象となる人々、地域看護と公衆衛生看護 第2回 公衆衛生看護の歴史、社会環境の変化と健康課題 第3回 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 第4回 公衆衛生看護活動に関連する法規と人材 第5回 国際協力：保健医療分野の国際機関と動向、日本の国際協力、国際看護・保健活動 第6回 公衆衛生看護活動の展開方法①地域の健康課題の把握方法(理論) 第7回 公衆衛生看護活動の展開方法②地域の健康課題の把握方法(技術)(グループワーク) 第8回 地域包括ケアシステム 第9回 地域における健康危機管理 第10回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ①保健所 第11回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ②四日市市役所 第12回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ③地域包括支援センター 第13回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ④産業保健 第14回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ⑤学校保健(グループワーク) 第15回様々な場における公衆衛生看護活動の実例 ⑥健康診断センター・健康保険組合/まとめ						後藤 大谷 後藤 大谷 後藤 後藤 後藤 大谷 大谷 大谷 大谷 大谷 後藤 後藤 後藤		
評価方法 評価基準	試験75%、授業態度15%、レポート10%								
教科書	看護師のための公衆衛生看護学：ピーラルプレス社	参考書等	講義の中で紹介する						
学生への助言等	公衆衛生看護の対象は、地域で生活するあらゆる健康レベル・あらゆる発達段階にある人々です。自分の日常生活を通して、地域にどのような人々が暮らしているのか、健康課題があるのか、それらの課題がどのように解決されているのかについて関心を持たれることを期待したい。								